

我々倫理法人会の年度も改まり、「拡充」方針三カ年の二期目に突入しました。全国各県・単会において、この「方針」に則った具体的な計画のスタートが切られました。

さて今回はこの「方針」についてです。そもそも「方針」とは、方位を示す磁石の針のごとく古来、船舶での航海や、未踏の地への探検などでは欠かすことの出来ないツールでした。それが現在では、企業や団体など複数の人間が力を合わせて何かを取り組む際に、向かうべき方向を指し示すものとして用いられるようになりました。

こうした「方針」が結果として実を結ぶためには、その徹底が不可欠であり、より細かい分野での、浸透度合いが物事の成否を決するといっても過言ではありません。

A氏の小学四年になる娘が通う小学校の運動会では、例年ベストポジションで我が子の勇姿を撮影しようと、早朝からの場所取りが過熱し、時にはルールを無視した保護者の振る舞いが横行して、学校としても頭を悩ませていました。それが今年はその様相が一変し、学校側の指導の下、整然と並ぶ保護者の前に、赴任間もない新校長が「子供たちの模範である親御さん方、子供たちの思い出となる運動会となりますよう、ご協力宜しくお願います」と深々と頭を下げたのです。

そして例年「立ち入り禁止」の立て札が無視される、砂場やブランコ等の遊具付近も嚴重にテープが巻かれ、断固進入を防ぎルールを守る、学校の姿勢が感じられ、誰一人とし

「拡充」方針の根底は 日々の「姿勢」にあり



絵・今谷 鉄柱

てシートを広げる人はいませんでした。さらに、競技する学年の保護者らが撮影の為に使う、譲り合いスペースが設けられ、互いに配慮し合う光景が見られたのでした。

A氏は責任者の毅然とした姿勢が全体に浸透する様子を、この校長先生の「子供たちの良き思い出になる運動会」という信念から学んだのでした。

昨年「今でしょ！」のフレーズで大ブレイクした予備校講師の林修氏は、子供の躰において一番大事なのは「姿勢」と言い切ります。「姿勢」は「集中力」の源であり、「集中力」が無ければ学力の向上も期待出来ないという事です。振り返ると誰もが小さい頃に「姿勢を正せ」「姿勢が悪い」と親や先生に注意された経験があるはずです。そしてこの「姿勢」は目に見える表面だけではなく、内面にある「心」の「姿勢」も大変重要な要素といえるのです。

あなどってはいけない。形がゆがめば、中味もゆがむ。僅かな角度の狂いは、一キロも進んだ時に大きな誤差となる。体の構え、ことにあたる時の態度は、結果を大きく左右する。

『丸山敏雄伝』

背筋を伸ばしてあごをひく、姿勢は気力の第一歩
「セラフアクト」

新年度の「方針」徹底にあたり、年度末という未来に思いを馳せつつ、自身の日頃の「姿勢」に意識をはらい、颯爽とスタートダッシュを切ってまいります。